

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代 (2ユニット合同)		
所在地	静岡県掛川市家代の里二丁目13番10号		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JivgoVoCd=2297400034-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居されている方達が安心して毎日過ごせるように職員が一人一人の表情・体調を把握できている○微細な変化にも気づける○入居者・家族・職員皆が楽しく過ごせるアットホームな雰囲気が作れている○入居者・職員一人一人が毎日笑顔であり、いつも笑い声が聞こえている○食事が摂れず看取りの状態になっている方に対して「何か口にできるものはないか…」と試行錯誤し職員全員で話し合い実行している。また、「今朝挨拶したらおはよ…って小さな声だけど言葉をくれた」「にこって笑ってくれた」と小さな出来事でも喜べる職員○自己評価を見て…『職員は生き活きと働いている』の項目に職員全員が「全て」と答えている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平均介護度4.12とは思えない穏やかな空気が流れ、管理者をはじめ明るく振る舞う職員が印象的な事業所です。協力医の応援体制が確立されるなか、ここ1年間で4名のターミナルケアをおこないました。看取りを経験したことのない若い職員には「怖い」との言葉も漏れていましたが熟練職員のフォローもあり、次第に「私が居る時にお見送りたい」と発言するまでになり、「看取りは究極の介護」との管理者の考えが事業所全体に浸透しつつあります。前頭側頭型認知症の利用者を積極的に受入れていることから、ケアが困難な状況下でも職員が前向きに取り組む力が培われていることが観えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『いつでも笑い声が絶えない 笑顔あふれる我が家でありたい』 認知機能の低下、体力の低下と共に表情の変化を表出できにくくなっている方に対して「今朝笑ってくれた。小さい声だけどおはよって言ってくれた」と嬉しそうに報告してくれる職員達です。どんな状況でも笑顔があります。	理念をベースにつくった年度初めの抱負「いつも笑顔で」が玄関に大きく掲示され、管理者が抜き打ちで「理念、を尋ねての意識づけを常とし、「朝の挨拶、特に第一声を大事に」と職員に示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方達が定期的にボランティアでイベントをしに来てくれます。4年間続いています。地域のイベントへの参加も声をかけてくれます。散歩に出かければ進んで声をかけてきてくれます。	日頃の散歩では顔見知りとなった近隣の皆さんや下校中の小学生との挨拶交換があります。1丁目公園の家代の里祭りや敬老会には声をかけてもらえ、ボランティア訪問や子ども110番も継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居されている方達を理解してもらうと共に、専門職としてどんな事にも対応できる状況を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催日を奇数月の最終火曜日と決め行っており事業所での出来事、入居者様の状況等細かく報告をし、御家族の想い・地域包括・地域の方達等の助言を日頃のサービス向上の為に活かせるよう職員全員で取り組んでいます。	行政、地域、家族が顔を揃える隔月開催があり、特に長く職責にあたる民生委員には地域を熟知した助言を受けています。またイベントのある日を運営推進会議に充て、家族の出席が得られるよう配慮しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いつでも相談に応じてもらえる状況を築けています。介護保険改定時にもお願いしたところ、快く来所してくださりわかり易い説明をしてくださいました。	5月の運営推進会議で家族から「2割負担」での質問があり、事業所が行政に依頼すると次の回に出席してもらえ家族にわかりやすい説明があったとの例からは市役所と迅速な連携が図れていることが覗えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による危険性を研修として行い、職員全員がしっかり理解しています。特に、日常の中での何気ない言葉の中に抑制につながるがあると理解してもらうようになっています。	本件は法人の年間研修に位置付けられ、また初任者研修の講師経験を持つ管理者が直接指導に生かしています。例えば「座ってて」と安易に言う職員には「なぜ座っていないといけなのか」と質問することで自分自身で考え、気づくように促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない言葉でも虐待に繋がることを職員全員理解しています。また、ミーティング時短時間ではあるが研修を行い個々の意識確認をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の尊厳の尊重を重視し、各入居者一人一人の自立支援を念頭に置き日々支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かい説明を心がけています。 また、気軽に何でも質問して頂けるような雰囲気を作るよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者のみが窓口になるのではなく、職員一人一人が対応できるようにしています。また、運営推進会議等でも発言しやすい環境を作り、話し合いを持ち、今後に反映させています。	面会の間隔が空き「様子を知らせてほしい」との家族意見から請求書とともに手紙を添えるように改善しています。また「外出やイベントが少ないのでは…」の声には外出記録や行事案内も加えるようになっていきます。	「情報発信をもっとやってはどうか」との意見もあるとのこと。現在家族の信頼は絶大ですが、今後はPRも含みブログなど一考を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	微細な事であっても聞く耳を持ち対応するようにしています。 本社の許可が必要な事案は迅速に稟議書を提出し対処してもらうようにしています。	個人面談はないものの帰宅時には事務所に顔を出すことになっており、体調面をはじめとするちょっとしたことが管理者に届いています。新人職員には不安なく仕事ができるようプリセプター制度が施されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	推奨してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	要望に応じ取り組んでくれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全て思いのままに聞き入れる事は出来ないのが現状ではありますが、微細な事でも言ってもらえる環境が作れるよう職員全員努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族・親戚の方達にとって敷居が低く、気軽に訪問して頂ける環境を整える事が職員が一番の望みです。一緒に笑い、一緒に泣けるような関係を構築していけるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の思い・希望をしっかり聞き、理解し最も必要な支援が行えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	よい関係づくりが出来ていると思います。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族を尊重したうえで、共に支えていける関係づくりを築くよう努力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居が長くなるにつれ、足繁く訪問して下さっていた方達の足が遠く実際があります。が、できる限り、御家族ともお話をし訪問して下さる機会が増えることを望んでいます。	針と糸、生花等職員が必要備品を準備することで以前からの趣味が続いています。公会堂への外出で詩吟の先生と偶然再会したことが契機となりボランティアとして来所してもらえるようになった利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の意向を尊重しつつお互いが関わりを持てるよう支援しています。また、職員は入居者同士の関係を把握しているので職員を交えての関係づくりにも考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後しばらくは連絡を続けお話しできる機会を作っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症状の悪化の為言葉での思いを表現することが困難となっている方もいます。日々の生活の中で職員が観察し言葉を聞き、想いを推し量れるよう努力しています。また、意思をしっかりと伝えられる方に対しては一緒に考え決定しています。	世話好きな人には他の利用者の水分摂取への気配りをお願いして想いに副っています。突然「バカ！」と言う人もよく観察してみると、自分への関わりの足りなさを訴えていたことがわかり是正したケースもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントした内容を職員に伝え、また、御家族のお話の中から情報を得、全員で把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の意向を尊重しつつ日々の生活の中から見出したニーズの下作成しています。モニタリングの中で微細な事であっても気付きを出し合い、反映させるようにしています。	日々の申し送り事項を月例のミーティングでのモニタリングに反映させ、漏れのないようにしています。さらに看護師との連絡ノートや家族の意向も含み、ケアマネージャー(管理者兼務)が書面化しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の様子・発言・意向等は経過記録に記入し、申し送り時口頭でも報告します。職員の気づきは『申し送りノート』またはその都度職員間で意見交換を行っています。まとめた結果を計画の見直し・実践に活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面での連携・地域の方達との交流を交えニーズに向き合い取り組むようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方達にお願いし、ボランティアでの訪問を定期的にもっています。また、地域のイベントへの誘いもあり、できる限り参加させてもらうようにしています。また、公園への散歩にも出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/2W訪問診療をうけています。24時間休診日であっても緊急時対応してくれます。日々の状態の報告に対し適切な助言・指示をしてくれます。また、御家族の希望にも快く応じてくれます。医師とはディスカッションができる良好な関係が築けています。	ケースに因っては1日に何度も電話での指示が協力医から得られ、看取りには遠出を控えてくださるとの親身な対応を受けています。看護師の常駐は週1～2回あり、他には訪問マッサージを7名が利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は介護職員からの報告・相談に対し適切な助言・指示をしてくれています。看護職員も常勤ではない為介護職員からの日々の状態を聴き一人一人の身体的・精神的な状況を把握できています。連携がスムーズにできており特変時等迅速な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換・相談を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族には入居時に説明をしてあります。また、微細な状態変化であっても話し合いを持ち、その都度改めてご家族の意向・希望を聞き職員を交え、方針を共有し支援に取り組んでいます。	ここ1年間で4名をお見送りしています。中には褥瘡ができてしまった人もいましたが、職員の献身的な体位交換によって看取ったときにはきれいに治っていたとの例もあります。医療行為が必要な状態となれば家族と今後について相談する場をもつようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル・連絡方法のマニュアルを職員が全員把握するようにしています。看護師を講師とし入居者一人一人に当てはめ、研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・避難場所は把握できています。地域の方達にもお願いし、いつでも協力してもらえる体制を整えてあります。また、防災リーダー・副リーダーの下、避難訓練を随時行っています。	年2回の実施には消防署職員を招き、さらには家族、副区長、地域の皆さんも交え、防災への熱心が受け止められます。ひな祭り、端午の節句、七夕、敬老会の行事に併せて利用者の搬送訓練もおこなっています。	昨年度の目標に引き続き備蓄の見直し、補充とともに炊き出し(備蓄点検)の体験があることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自分の親、身内を思い浮かべ、また、自分がしてほしいケアは絶対しない様、人生の先輩として敬う心を忘れず対応していこうと、職員全員が実践しています。	意思疎通が難しいからとあきらめず「味付けはどうですか?」と、「教えてもらう、姿勢を忘れずに接しています。手づかみでの食事となってしまう人にも遮らず「自分で食事を摂る」という意思を尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想い・希望は重視しています。言葉で伝える事が困難な方も多くいますが日常での対応の中で感じ取ることが出来る様努力しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重しています。希望どうりには応えられない時には本人とよく話し合い理解してもらうようにしています。代わりの楽しみも提案しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには充分気を付けています。ご家族・お知り合いがいつ訪ねてきてても不快な気分にさせないようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「美味しかったよ」との言葉を励みに食事を作っています。食事中他者の世話を焼いている入居者を見ると微笑ましく嬉しい気持ちになります。箸を使わず手で食べていても自分で美味しく食べてくれることが一番と思っています。	法人の方針で6月からは仕入業者が1本化されたため、調理では味付けや色合いにこだわっています。味には変化をもたせるためにも一手間加え、行事では「お楽しみメニュー」を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜が嫌いな方・肉が苦手な方様々ですが、苦手なものは味付け・形状を工夫してできる限り食べてもらえるようにしています。水分を摂ることに拒否がある方もいます。声掛け、時間帯等工夫し飲んでいただける様努力しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には自立で行ってもらっています。が、仕上げは全員職員がするようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターン・動作をしっかり把握しています。が、排泄意が不確かでまた、トイレの認識が困難で失禁が多くなってしまっている方も現状ですがトイレでの排泄が多くなっている方もいます。あきらめず、根気よく自立での排泄を支援しています。	「日中は出来るだけ紙パンツ」となるようにし、夜間は紙オムツでもその人が望めばトイレ介助をおこないます。また「排便は便座で」を貫いていますが、一方で3分の1の利用者は居室での交換が主となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のサイクルを把握し、食事・水分補給に留意し、また適度な運動が出来る様にしています。臥床時間が長い方に関して起床の時間を作り自立での排便を促すようにしています。それでも便秘が続く方には看護師・医師と相談し本人の身体・状態に合わせ便秘薬を処方して貰っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい気持ちを優先しています。入浴があまり好きでない方に関しては、声掛け等工夫し無理なく促すようにしています。入浴剤を入れ香りを楽しみ、楽しんで入浴できる様考えながら支援しています。	浴日は決めず、週2～3回を目安としています。備付リフトは利用者が怖がるため使用していませんが、洗身にシャワーチェアでも適切な介護技術により湯に浸かれ、「気持ちよかったわあ」との声がこぼれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でのんびり過ごす時間がほしい方達の想いを優先しています。が、フロアで過ごす時間も大事にして自室にこもってしまわない様声を掛けさせてもらっています。短時間の散歩も楽しんでもらい、天日で干しふっくらとした布団と清潔なシーツで安眠してもらるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の内服薬を職員全員把握し、看護師より効能・副作用の説明をもらっています。変更時は必ず口頭&申し送りノートに記載し状態観察の徹底を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前行っていたことが出来なくなっている方達があります。手を動かすことが困難な方には隣に座り教わりながら職員が行う、等自身でできない事であっても一緒に行っているという思いを感じてもらおうよう支援しています。「できっこないよ～」と言っていた方が「貰ってご」と言って上手に針仕事をしてくれる方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ちょっとした買い物・車の給油等に誘って一緒に行ってもらう事があります。外出が苦手な方とは玄関前でおしゃべりしたり駐車場をぐるっと回ったり、近くの公園まで散歩に行ったりしています。定期的にご家族と外出したりお墓参りに出かける方もいます。	社用車の給油といった些細な外出も利用者に声をかけ「細目にと」心掛けています。ミニドライブは2丁目公園、掛川城、旧東海道が定着し、見慣れた景色に昔を懐かしむような表情や発語が現れる利用者もいます。	平均介護度4.12のなか尽力くださっていることは十分確認されていますが、車いす利用が増えていることを鑑み外気浴や事業所の廻り1周との小さな日課活動も期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は御家族がしています。希望があればご家族と相談しご家族または職員と一緒に買い物に出かけたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方は御家族と相談し行えるようにしています。手紙が来たらお返事を書いて出すという方もいるのではがきを渡してある方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年月と共に雑然としてきていることは否めませんが、日々生活する家庭の空間として落ち着く環境になってきていると思います。	シンプルなりビングには陽の光が優しく差し込み、這ってしまう人のためにも床掃除が丁寧におこなわれています。クリスマスの装飾は制作中でしたが、「一般家庭には壁画は見られない」との考えを以て極力抑えようとの方針です。	調査員訪問時には清潔でしたが、家族アンケートでは居室や車いすも含め清掃について「さらに」との希望がいくつかあがっているため、向上を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格・状態を把握し落ち着いて過ごせる環境を作る努力をしています。職員を交えのんびり過ごせる時間を大切にしています。自室に閉じこもってしまわないようなフロアの雰囲気を作り出しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みに合わせ、動きやすさも考慮し部屋の中をレイアウトしてもらっています。季節ごとに飾り物を持参してくれたり、写真を飾ってくれたりする御家族がいます。	扉とともに表札も木材で設え趣があります。ひ孫をはじめ大勢が映る写真からは家族愛が滲み、また筆筒をはじめとする大きな物がなくマットが敷き詰められた居室は転倒の心配がある人とのことでした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立と本人の希望が一番です。危険を回避し楽しく自由に過ごしてもらえるよう支援していくことが重要と考えています。		